

大牟田市立吉野小学校

1 本校のESDの特徴

本校は学校教育目標である「持続可能な社会づくりを担う、心豊かでたくましい吉野の子どもの育成」を達成するために、今年度は、「達成感を味わい、自ら進んで行動する子どもの育成」を重点目標に掲げている。自らの課題を持ち、発展的に解決策を考える思考力や他者との双方向の関わりを深める力であるコミュニケーション力、よりよい生き方を見出し実践しようとする行動力を育てていくことが重要である。これらは、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度に合致するものである。さらに、一人ひとりの子どもの個性を伸ばしながら、SDGsの達成に向けた取組を教育課程を工夫しながら行っていくものである。

そこで、生活科・総合的な学習の時間を中心に、他教科・領域との関連を図り教育課程を工夫しながら、持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育み、本校の学校教育目標の達成に迫っていきたいと考える。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

1年「すてきな よしの はる・なつ・あき・ふゆ」「ひとつぶのたねから」

2年「はっけん！ よしののまちの いいところ」「わくわくするね2年生」

「つくろうあそぼうくふうしよう」「未来の吉野っ子」

3年「人にやさしい 吉野の町」「有明海の生き物調べ」

4年「命つなげる 吉野小 生き生きビオトープ大作戦」「わたしたちの エコライフ」

「これからの私 2分の1成人式」

5年「未来につながるまち 吉野小桜プロジェクト」「有明海につながる白銀川・隈川の環境を守ろう」

6年「世界の平和を考えよう」「吉野の自然」「世界文化遺産学習」「つなごう吉野・大牟田の宝」

3 特徴的な活動事例

<4年 総合的な学習の時間 生き生きビオトープ大作戦（37時間）>

(1) 目標

ビオトープの管理人として、自分たちにできることを考え、友達や地域の方々と協力しながら日本固有種を守り育てていく活動を通して、吉野小のビオトープを命の場所として守り育てていきたいという思いを持ち、先輩から受け継いだビオトープを誇りに思うとともに、生物多様性の意味やそのすばらしさを知ることができる。

(2) 実際の展開

①課題設定。②ビオトープの生き物を調べる。③管理人として生き物を守り育てる。④未来につなげるための発信をする。

(3) 子どもたちの様子

ビオトープの管理人として、生き物を調べたり、育てたりした。生き物について調べたり、GTから話を聞いたりして、日本固有種を守ることはとても難しいことであり、大切なことであることを知り、どのようなことができるかを考え、行動することができた。本年度は、柿川先生や地域の方などのGTと一緒に黒メダカを守るために、水を抜いてかだやしをとり、ヘドロをとってビオトープの掃除を行った。(写真①)



【①ビオトープの掃除】

< 5年生 総合的な学習の時間 単元名「未来につながるまち 吉野小桜プロジェクト」(25時間)>

(1) 目標

吉野小学校のシンボルである桜に対する先輩や地域の方々の思い・願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通したまちづくりについて考え、実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからについて考え、地域に貢献したいという思いを持つことができる。(相互性、多様性、責任性、連携性)

(2) 実践の展開

①学習課題をつかむ。

ア) 桜プロジェクトについて知る。

イ) 6年生との交流会を行い、学習課題を設定する。

・どんなこと ・どんな思い ・成果と課題



【②地域の方と桜について学習】

②吉野の桜の歴史やそれに関わってこられた方々の思いや願いを調べる。

ア) 課題に応じて情報収集を行う。(写真②)

・校章に込められた思い ・開校当時の様子、思い ・桜とはどんな植物

イ) 調べたことを整理し、吉野の「桜」について友達や地域と考えを交流する。

ウ) 桜や地域についての考えや思いを夏祭りで発信する方法を考え、実践する。

③桜でつながる、吉野のまちづくりを実践する。(写真②)

ア) 吉野夏祭りをふり返り、成果と課題を共有する。

イ) 桜を通したまちづくりについて『絆プロジェクト』の方々と交流し、目的を共有する。

ウ) 共有の目的を達成するための活動について、計画する。

エ) 課題をよりよく解決していくために、実践を行う。(写真③)



④桜プロジェクトと絆プロジェクトの活動をたくさんの人に発信する。 【③地域の方と桜の世話】

(3) 子どもたちの様子

これまでの先輩の活動を調べていく中で、子どもたちは、この素晴らしいプロジェクトを受けつぎ発展させていきたいという思いを持ち、本年度のテーマを「未来につながるまち 吉野小桜プロジェクト」と決定した。桜の校章に込められた思いを当時の先生から受け取ったり、地域の方とこれからのまちづくりについて交流し、地域の方の思いに触れたりすることを通して、子どもたちは、プロジェクトへの思いを深めていくことができた。本年度は、地域の方に教えてもらいながら、これまで先輩が植樹した桜に肥料を入れたり、剪定を行ったりした。地域の方からは、「みんなで手入れをして、百年桜を目指しましょう。」と温かい言葉を頂いた。

4 本年度の成果と課題

○成果

・4年生は、理科や社会の学習と関連を図りながら、生き物を守り続けるために、自分たちができることを考え、実際に行動することができた。

・吉野小のシンボルである桜を通して、友達や地域の方々と積極的に関わり、学校や地域の一員として、よりよい学校・地域づくりに参画する喜びを実感し、自己の生き方を追究することができた。

○課題

・行動の変革というねらいを達成するために、全教育活動を通したホールスクールアプローチを強化し、吉野ハッピータウンプロジェクトのテーマのもと、SDGsを目標に持続可能な社会の担い手を育むESDを展開していくこと。